

# 平成28年度自己点検評価

対人援助研究センター長 山崎 晃(教育学研究科長)

## 【目標】

文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に応募し、支援を必要とする子ども、障害児・者、高齢・認知症者が健康に暮らす共生社会の実現のために、HBG 対人援助研究センターを核として、看護・医療福祉、スポーツ・健康福祉、子ども子育て・教育福祉の3研究部門から、対人援助プログラムと持続可能な地域支援サポーター養成プログラムの開発と検証を行い、本事業が地域の活性化に結びつくことを実証する。

「地域共生のための対人援助」を広島文化学園大学のブランドとする。

## 1 【実施項目】

研究ブランディング事業の実施体制を構築する

### 【具体的施策】

- ア HBG 対人援助研究センターに、研究のリーダーを学長とし、副学長、大学院3研究科長（看護学研究科、社会情報研究科、教育学研究科）、研究推進室長からなる推進会議を設置し、研究企画、実施、評価等を組織的に行うよう体制を整備した。
- イ 各研究部門別に研究プロジェクトチームとして事業を推進するために、研究責任者、副責任者、委員を配置し、研究概念図及び推進本部組織概念図の作成や年度毎の研究目的・研究方法の具体化、研究担当者・担当部署・研究役割等の確認と割当を行った。
- ウ 広島文化学園中期経営計画Ⅲ（平成28年度から平成31年度）に研究ブランディング事業を位置づけ、対人援助研究センター規程、外部評価委員会要綱などを制定し、事業が円滑に行われるように学園・大学全体の事業として位置づけした。
- エ 各研究部門のプロジェクト毎にキャンパス会議を開催するとともに、3研究部門の事業実施状況の把握、情報の共有、部門間の連携等に関する対人援助研究センター会議を開催した（第1回～第6回）

### 【達成目標】

平成28年度から平成30年度までの3年間の事業成果が問われる平成30年度末の中間評価をクリアし、平成31年度以降（2年間）も引き続き選定されるよう研究ブランディング事業を推進する

## 2 【実施項目】

事業成果の公表

### 【具体的施策】

- ア 研究ブランディング選定に関する選定状況及び本学の申請情報を本学のHPに掲載し、併せて文部科学省にHPでの公表を報告した。（1月）
- イ 対人援助研究センター室員と大学広報企画委員と連携のための打ち合わせを行い、研究ブランディング事業の選定に関わる本学の方針と研究ブランディング事業目的との関係などの情報に関する本部長（学長）インタビューを発信した。また、関連記事が地元紙に掲載された。
- ウ 地域との共生を図り、本事業の意義・目的等について周知するため、平成28年度12月にキックオフ・ミーティングを実施し、3研究部門がある広島市、広島市安佐南区、呉市、坂町の自治体関係者及び地域、本学全教職員が参加し、研究ブランディングに関する全学の意思統一を図り、学園を挙げて積極的に取り組む意識付けを行った。キックオフ・ミーティングリーフレットを作成し、各関係機関に配布した。（12月）

### 【達成目標】

最新の情報を周知するために、月に1回以上のHP情報を更新し、活動内容、活動報告、進捗情報を公開する。

### 3 【実施項目】

外部評価体制の整備

#### 【具体的施策】

ア 平成28年の12月に、キックオフ・ミーティングと合わせ、外部評価準備委員会を開催し、対人援助研究センター規程と外部評価委員会要綱を提示し、その要綱に基づいて、外部評価委員の任命し、平成28年度以降の事業内容について評価を受けることを確認した。

平成29年5月17日開催

外部評価委員 青柳幸利氏 東京都健康長寿医療センター研究所副部長  
森永康子氏 広島大学大学院教育学研究科教授  
長谷川博氏 広島大学大学院総合科学研究科教授  
河下寿昭氏 呉市文化スポーツ部副部長兼スポーツ振興課長  
児玉安司氏 広島市教育委員会特別支援教育課長

#### 【達成目標】

外部評価結果を次年度以降の研究に生かすPDCAサイクルを確立し、平成30年度末実施の中間評価において肯定的評価を受ける。

### 4 【実施項目】

予算策定と適正な執行

#### 【具体的施策】

ア 実施計画に基づく効果的な予算執行

イ 研究ブランディング事業の推進のため、専門員として助教を採用

ウ 平成28年度 関連備品リストを作成し、平成29年4月 国へ申請

エ 対人援助のための施設設備の充実

平成29年6月長束キャンパス対人援助研究センター室の施設設備を新たに増設

#### 【達成目標】

平成29年度から実施計画を着実に推進するための環境を整えることから、人的措置、備品の整備、施設の充実などの準備を進める。

### 5 【実施項目】

関係機関との実施連携構築

#### 【具体的施策】

ア 研究ブランディング事業に応募するため、包括協定を結んでいる呉市との連携協議を行い、意見書等を完成した。

イ キックオフ・ミーティング開催について案内状を発送し、ミーティングへの参加を依頼し

た（広島市及び広島市安佐南区、呉市、安芸郡坂町等の行政機関、教育委員会、社会福祉協議会、幼稚園・保育園・保育所・認定こども園・小学校・高等学校等）。

ウ キックオフ・ミーティング参加者に対する本学研究プロジェクトに関する期待・意見等を訪ねるための質問紙を作成し、調査を実施した。

エ 行政機関・高齢医療福祉施設・養護施設・幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・特別支援学校等

との連携については一部のみの実施となった。2月には呉市との連携推進会議を実施し、HP等で紹介している。スポーツ・健康福祉研究部門では、呉市において、平成29年5月に、高齢者に対する調査を共同で実施する準備ができた。

#### 【達成目標】

研究部門ごとに、関係機関との連携を図る。

#### 【総合評価】

広島文化学園大学の研究ブランディング事業については、中期経営計画Ⅲをはじめ、本学の目指すべき方針となっており、全教職員を対象とした理事長、学長講話や研修会、毎月開催している大学・短大協議会、さらには、キックオフ・ミーティングを通して大学の全教職員に研究ブランディングの意義や目的が周知され、全学の構成員の協力体制を築き推進する体制が構築されつつある。

平成28年度は、理念、組織、体制、会議体の持ち方、手続き等を整備することに力を注ぎ、組織体制は、ほぼ達成したといえる。また、3研究部門が研究計画に基づき、備品などの整備をはじめ、カフェの実態調査、高齢者を対象とした公開講座によるパイロット調査など、平成29年度の準備ができた。

来年度、より充実させるべき事項としては、HP等広報の改善、特別支援を必要とする療育センターなどの関係機関との連携、各研究部門の研究の高度化、調査データの分析、考察、支援プログラムの構築などが挙げられる。

#### 【参考 平成29年度事業計画】

研究部門ごとに、前年度の関係機関、地域の自治体との連絡調整により確保した研究協力者、支援対象者に対する対応手続きを確定する。

- (1) 看護・医療福祉研究部門では、「来んさいカフェ：呉」に参加した高齢・認知症者の健康の程度、生きがい、日常生活動作のベースラインを測定し、高齢者支援 HBG 看護プログラムを試行する。
- (2) スポーツ・健康福祉研究部門では、「来んさいカフェ：坂」に参加した障がい者(肢体不自由)・高齢者の健康関連の QOL のベースラインを測定し、HBG 健康アダプテッドプログラムを試行する。
- (3) 子ども子育て・教育福祉研究部門では、「来んさいカフェ：広島」に参加した子ども、保護者を対象として、発達や発達課題、不安等の QOL のベースラインを測定し、HBG 子育て支援プログラムを作成し、実施する。

また、地域支援サポーター養成のためのプログラム案を作成し試行する。

- (1) 看護・医療福祉研究部門では、「来んさいカフェ：呉」において、地域の民生委員、高齢者福祉施設の職員などを対象に支援サポーター養成プログラムの作成し試行する。
- (2) スポーツ・健康福祉研究部門では、「来んさいカフェ：坂」において、高齢者施設や障害者施設の職員などインクルーシブ・スポーツ実施時の支援サポーター養成プログラムの作成し、試行する。
- (3) 子ども子育て・福祉研究部門では、「来んさいカフェ：広島」において、子ども・子育て支援サポーター養成プログラム、食育支援サポーター、音楽サポーター養成プログラムを作成し、試行する。いずれの部門のプログラムについてもその課題を修正し、信頼性・妥当性を高める。また、サポーターの活動組織の形態・システム等について検討する。